

会長 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 06-6833-9227  
事務局 〒577-0054 東大阪市高井田元町1-14-2 岡本 至弘 06-6788-2796  
編集室 〒586-0039 河内長野市楠ヶ丘11-18 中川 良三 0721-65-0348  
HomePage担当 〒577-0054 大阪市住之江区南港中3-3-31-520 坪井 仁志 06-6613-2836

令和6年4月(2024年) No.700

## 遂に達成した OMC 会報 700 号記念号

会長 合原一夫

平成27年12月号(2015年)600号記念号から8年と4ヶ月、遂に700号となりました。毎月発行してきたとして58年という長き発行履歴があることとなります。残念ながら初号からすべての号が保存されていなくて、前々会長の川端健二さんの頃の会報が見当たらないのがありますが、大半が保存されていて、今でも現物を見ることが出来ます。過去の会報の整理にご尽力頂きました前公報担当だった前田茂夫さんに感謝すると共に、引き継いで整理して頂いている担当会員各氏にも感謝申し上げます。データ保存に変わってきておりますので、後世の方にも伝え継がれていくことを期待しています。

さて、会報には特筆すべきニュースが乗ることがありますが、590号(2016年2月号)には、あの丹波篠山の全国ビデオコンテストに、我が大阪ムービーサークル会員が、4年連続グランプリを受賞したというニュースがとても印象に残っています。丹波篠山の全国コンテストは日本一レベルの高いコンテストで、入賞するだけでも名誉な事でした。後にも先にもこんな奇跡の様なニュースが乗ることはないでしょう。

会報600号記念号には、それまでの会の歴史や例会場の移り変わり、会員集が38名だった事、当時も年会費は1万円だったこと、第二例会もやっていた事などの記録が残されていて感慨深いものがあります。

更に遡って500号記年号には、毎月の例会には40名ほどの会員が集まり15~18本の作品が出品されていることが載っています。

1999年(平成11年)4月号は400号記年号で、会員諸氏の投稿が特集されています。熊野古道の撮影会の参加者募集の記事もありました。

いずれにしても長い歴史を持つ大阪ムービーサークルの灯を守り続けていくことが大事であることを改めて痛感しております。



### 4月例会のお知らせ

- 27日(第4土曜日)13時開場、13時30分開会。担当役員は早めに来てください。楽しいひと時を過ごしましょう

OMC会報「600号」の重み

会長 合原一夫

今年最後のOMC会報が丁度600号だといふ。一年12回発行だから、600号といふと毎月欠かさず発行してきたとして50年という答えが出てくる。当初の頃のものも現存しているが、手書きのガリ版摺りのものであった。先人たちが苦労してこの大阪ムービーサークルを盛り立ててきたのであろう。公開映写会も今年55回目であったから、会としては会報以前から始まっていたことになる。私がこのクラブに入ったのは昭和47年だったので今年で43年目になる。当時、川畑健二氏が会長であり、8ミリ全盛時代であった。その川畑会長が昭和62年12月に他界され、その後を引き継がれたのが小倉宝蔵さん、8ミリフィルムからビデオに変わる頃の会長さんだった。その小倉会長も病気で亡くなられ、私が会長を引き受けたのが平成7年12月、あれから丁度20年が過ぎ去った。引受けたときの会員数は17名、会費2万円、大部分は例会場のホテルアウイン会場費19万円ほどの高額だったため、会費が高かったのだ。その後安い会場を探して、阿倍野学習センターに移り、更に梅田の生涯学習センターへ移ったが部屋の環境が悪い(音が廊下へ漏れて苦情多し)平成16年2月例会より現在の難波学習センターが例会場となり今日に至っている。こうした歴史が判るのも会報の存在があればこそだ。次に700号記念号まで私が生きている保証はない。或いはOMCニュースという紙の会報が無くなってメール等の媒体に変わっているかも知れない。しかし、現在会員数38名という盛会ぶりを何とか今後も続けていってほしい。そしてそれを後世に伝える「会報」を継続していってほしいと願わずにはいられない。年末に当り、本年は会員の皆さんのご支援ありがとうございました。来年もどうぞよろしく願いいたします。

12月例会のお知らせ

■第2例会：第3木曜17日13時より、一般作品上映後、参考作品鑑賞会。  
■通常例会：第4土曜26日18時より、来年度会費1万円(臨時世話役会で承認済)を会計に納めて下さい。また当日13時より幹事会、15時より世話役会開催。よろしく願いいたします。

-1-

丹波篠山ビデオ全国コンテスト  
わがOMCが4年連続グランプリ  
今年は前田茂夫さんの「余部に生きる」が快挙

丹波篠山ビデオ大賞全国コンテストは、今年第26回目を迎えました。全国コンの中でもレベルの高いコンテストとして世に知られていますが、幸いにも我が大阪ムービーサークル会員が4年連続グランプリに輝く、という快挙を為し遂げました。今年は先月例会で発表された前田氏の「余部に生きる」が大賞に、おばあちゃんの言葉が得られたのが大きかった様です。昨年は合原氏の「最後の田んぼ」その前は黒田氏の「家族で受け継ぐ無形文化財」そして4年前は同じ前田氏の「炎に挑む」でグランプリ受賞、結局4年連続の快挙となり、うれしい限りです。前田さんへ皆さん拍手！来年はOMCから複数のチャレンジャーが出てほしいものです。テーマは「生きる」7分以下の作品が求められています。吉岡さんの「つばめ」などなどもう少し手を加えれば「イケル」と思いますが…。応募数が50本に満たない現状ということで、開催自体の継続が危ぶまれているようです。当クラブも協賛して何人かの人に出してほしいところです。(出品料なし)。

【参考：これまでのOMC会員入賞歴、最安路良枝さん1回、安藤利衣氏3回、有村博氏2回、黒田敏彦氏1回、合原一夫氏1回、前田茂夫氏3回 計11回】

平成26年度 年度賞の発表

平成26年度の年度賞は12月例会日の午後、幹事会で検討した結果、今年は年度大賞該当作品が見当らず、年度優秀賞、年度優秀賞、OMC会長賞の3本が選ばれ、トロフィと表彰状がそれぞれ会長から手渡された。  
■年度優秀賞 森口吉正さん 「大山名水探訪」  
■年度優秀賞 華岡 荘さん 「カウナスと十字架の丘」  
■OMC会長賞 高瀬辰雄さん 「熟る大船餅」 以上、拍手！

2月例会のお知らせ

2月例会は第4日曜28日午後6時より難波市民学習センターにて開催します。立春とはいえまだ寒が続いています。風邪など召さぬ様にして例会そして2次会を大いに楽しみましょう。

-1-

大阪アマ連主催のイベント

懐かしの映像を楽しむ会 7月28日

作品をお持ちください

今年も近鉄布施駅前夢広場ホールにて「懐かしの映像を楽しむ会」を開催いたします。大阪アマ連が主体ですが、OMCが主体となって動かないと作品が揃いません。10年以上前の作品で自分がいいと思う作品を募集します。4月例会に作品を持ってきてください。

- 出品料：10分まで5,000円。2分増す毎に1,000円UPとなります。
- 作品は36文字以下のコメントを付けて提出して下さい。

注) コメントは事務局により修正させて頂く場合があります、ご了承ください。

- 作品の採否は大阪アマ連のプログラム編成会議で決まります。選に漏れた場合はご容赦ください。

OMC会報700号発行記念によせて

副会長 岡本至弘

OMCニュース700号発行おめでとうございます。第1号発行が1964年(昭和39年)7月発行という記録がありました。当時は毎月の発行ではなかったようですので、60有余年、あるいは70年あまりに渡る歳月をかけて、アマチュア映像文化の変遷を伝えてきたものと思われまふ。私が、初めて手にしたのは、1984年2月号(221号)でしたので、現在までに479号の会報を読んできたこととなります。現在もすべて保管しております。

私が、OMC に入会当時は、8ミリフィルムの全盛時代で会長さんが川畑健二さん、それから小倉宝蔵さんにそして現会長さんの合原一夫さんで3代の会長さんにご指導いただいたことになります。

私が映像の世界にはいったのは、1980年代のはじめで、OMC 入会前は、スタジオエイト（横山勇会長）に1982年ごろからお世話になっていたので映像に係って40年あまりの歴史が流れました。当時は、小型映画の全盛時代で、カメラは、フジのシングル ZC800、キャノンの814、1014、ニコンのR8など、今でも書棚に眠っております。8ミリフィルムの時代は撮影して現像に出してから3日～7日かかり、それから編集段階へハサミでフィルムを切ってセロテープでつないで編集したものです。そして編集が終わった後磁気テープをコーティングしてそれに音声を入れたものです。今思えば懐かしい思い出がよみがえってきます。

会報をさかのぼってみますと、300号が1990年11月号、この時は小倉会長さんで公開映写会を日経新聞が大きく取り上げたというニュースが掲載されています。400号が、1999年4月号でこの時は現会長の合原さんがOMCは創立60年の年かという記事が載っています。500号が、2007年（平成19年）7月号、600号が2015年（平成27年）12月号です。これほどの会報を発行しているのは全国ビデオクラブではおそらくないと思います。

OMCが毎月第1土曜日の午前10時より、ZOOM会議を実施していますが、この程4月6日（土）のZOOMになんと、御年99歳の柴辻英一会員が、パソコンを駆使してお元気な顔で登場、皆を驚かせました。

OMC会報が、あと8年発行を続ければ800号になります。私はこの大先輩を見習えば85歳で800号を手にすることができます。

これまでには、多くのベテラン作家が、黄泉の国へと旅立たれました。これからは、私たちが、過去の歴史を振り返りながら、新たな発想で映像づくりに励んでいきたいものです。

OMC会報700号発行をお祝いし、OMCの益々の発展を祈念いたします。

#### [事務局からのお願い]

OMC会報欠番、第(2～117・119～127・129・131～133・136・137・151・180)号をお持ちの方がおられましたら、ご連絡ください。(岡本)

## 元会員で広報担当だった前田茂夫さんより祝辞

### OMC会報700号おめでとうございます。

日本中探してもこれだけ歴史ある会報およびビデオクラブはOMC以外にないと思います。OMCに入会させていただいたのは昭和49年（1974）でした。以来長きにわたりお世話になってきました。

思えば例会ニュースの印刷を手伝ったり、HPの立ち上げ過去の会報の発掘にも手伝わさせていただきました。最近では高齢化のためビデオ制作をしていませんが、Youtubeを見て皆様の作品を鑑賞させていただいております。

私事ですみませんが足腰も悪くなり電車で行くことが苦痛になってきました。映写会も鑑賞させていただけません。OMC例会ニュースを楽しみにさせていただいております。

今後OMCのますますのご発展ご隆昌を祈念いたしております。

元 OMC 会員 前田茂夫

## 3月例会レポート

- 運営担当：司会 植村、書記 高瀬、YouTube 関係 江村、  
映写 中川、道下、メモリー記録 江村  
受付・照明 大久保、森下の各氏
- 出席者：岩井、植村、江村、大久保、岡本、上総、柴辻、  
高瀬、坪井、中川、道下、森下、山本の 13 氏  
合原氏は作品のみ



上映作品（今月の書記は高瀬）

### 1. ドローンを楽しむ

- ・大阪富田林市石川
- ・和歌山県白浜町志原海岸 BD  
道下敏行 7分19秒

（作者コメント）

ドローンで撮影した大阪富田林市の石川上空と和歌山県白浜町の志原海岸上空の映像を音楽とともに楽しむ。

（書記コメント）

前半の石川では軽快な曲に載せて川とその周辺の景色をテンポのよいカット編集で描写。何度も同じ情景を繰り返し撮影されたのだろう、やや類似と思われるシーンも微妙に違うアングルでうまくとらえられている。そして白浜の海、特に波打ち際のシーンはこれまでに見たこともないような素晴らしい映像。前半とテンポの違う BGM も映像にぴったり合っている。ただタイトルが YouTube での試聴を意識されたものと思われ、その場合は仕方がないのでしょうが、「作品」とするならば、たとえば次の坪井作品のような抽象的、イメージ的なものがないのではないのでしょうか。



### 2. THE BULE BD 坪井仁志 5分20秒

（書記コメント）

2016年11月5日、雲一つない青空の下、奈良平城宮跡、太極殿から飛び立つように航空自衛隊、ブルーインパルスが現れる。そしてインフォメーション飛行やスモークを使った空の描画など華麗な飛行を展開。素早いカメラワークでブルーインパルスを追っていく。しかし翌6日は打って変わって曇天、ブルーインパルスの航跡も雲に紛れ勝ちで前日ほどの迫力がない。ということでしょうか、再び前日の真っ青の空の飛行に戻るといって、苦心の跡がうかがえる構成となっている。



### 3. 俊徳街道と十三街道 BD 山本正夢 9分15秒

（作者コメント）





四天王寺から生駒を越えて平群まで歩きました。俊徳丸の名前は馴染みがなかったが、昔の辻説法で語られた継母いじめのハッピーエンドです。

**(書記コメント)**

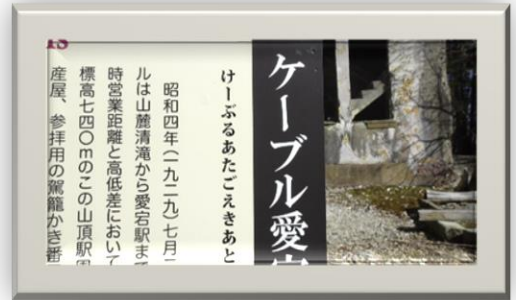
大阪四天王寺を出発し、俊徳街道をたどり、東大阪の三ノ瀬付近で合流する十三街道を行き、生駒を越え、奈良の近鉄平群駅までおよそ30キロを歩かれています。街道沿いの史跡や地蔵、石仏などを撮影、時には風景を心象的に描かれています。いつものことだが、多くのスポットをたどりながら、常に安定した映像表現と健脚ぶりには驚かされる。ただ今回の街道紀行は俊徳丸の伝承や地理が不案内だと一度見ただけでは、その道程が解りにくく、地図を入れた方がいいのではという意見がありました。

**4. 廃線紀行⑩ 愛宕山鉄道 BD**

江村一郎 8分30秒

**(作者コメント)**

久々の廃線紀行で、京都で一番高い愛宕山(924m)に行つて来ました。愛宕神社は火伏の神として古くから知られ、昭和初期になると嵐山から清滝までをつなぐ愛宕山鉄道の平坦線と、清滝から愛宕山中腹までをつなぐケーブル線が開通してスキー場や遊園地、ホテルなど施設が次々とオープンした。しかし戦争末期、愛宕山鉄道は不要不急路線として廃止命令が下されます。開通からわずか15年余りでその歴史を閉じた。



**(書記コメント)**

作者が以前から行ってみたいと言われていた愛宕山ケーブルの廃線跡、廃線となってから80年経つ。頂上の駅跡にたどり着くには二つのルートがあるようだが、清滝の登山口からのケーブル跡は途中のトンネル数カ所が崩落し、山を越えなければならず、行くのは危険。登山道から行くのも、ルートの案内標識はないらしい。今回、よく行かれたものと感服します。たどり着かれた愛宕山ケーブルの駅舎はまさにコンクリートがむき出しとなった廃墟、かつて遊園地やホテル、スキー場があったとは信じられない光景である。澄み切った青空と廃墟、この対比が印象的です。

**5. 伝統を受け継ぐ菅細工**

岡本至弘 14分48秒

**(作者コメント)**

2007年から2010年まで3年かけて作った作品です。今年の懐かしの映像作品を楽しむ会の作品にならないか、参考に持ってきました。



**(書記コメント)**

東成区深江地区にはお遍路さんの菅笠に代表される菅細工の伝統的な技法が受け継がれている。そんな深江の歴史や菅細工の製品づくりを何度も取材撮影され、菅細工に携わる地元の人々や子供たちの活動に密着し丁寧に描かれています。3年かけて制作されたとかで、力が入った労作と言えます。ただラスト近く、先に話されている菅細工保存会の女性の言葉が終わらないうちに、次の人を紹介するナレーションが少し被さっているのが、ちょっと気になります。

6. 聖なる御手洗池 BD

高瀬辰雄 12分30秒

(作者コメント)

京都・下鴨神社の境内にある御手洗池。ここでは毎年4つの神事が行われる。3月流しびな、5月葵祭御禊の儀、7月みたらし祭（足付け神事）、8月矢取神事の4つ。いずれもコロナ禍以前に撮影したのですが、この4つの神事と御手洗池をテーマにまとめてみました。



7. NHK列島ニュースに出演 DVD

合原一夫 6分

(作者コメント)

NHKが我が家にやってきて、大阪万博の頃を取材。7人がかりで朝10時から午後の4時頃まで万博記念公園にまで出かけての撮影だったが、放送予定日は国会中継で中止。延びのびになってようやく3月11日列島ニュースの中に入れてもらった。6分間に過ぎなかったが、それでもやれやれである。放送後お電話がかかってくる、お便りを頂いたり、全国放送の影響を感じた。



(書記コメント)

NHKのニュース映像ですので、書記のコメントはありません。

8. YUKATA BD

柴辻英一 11分

(書記コメント)

ゆかたコンテストで色鮮やかな数々のゆかたが登場、続いてナビゲーターの細井靖子さんがゆかた姿で、ゆかたの出来るまでを紹介されている。堺の石津川沿いの毛穴地区で発展した「和ざらしゆかた」は匠による伝統技法が用いられている。染色工場では精練、漂白から始まり、板場での型置作業、染料をそそぐ注染、染上がった生地の水洗、乾燥と流れるように続く、製作工程を丁寧に描かれ、細井さんの説明も解りやすい。構図やカメラアングルにそつがなく、大ベテランの方のさすがと思わせる作品です。



9. 同級生マイストーリー 11分

上総秀隆 BD

(作者コメント)

2024年9月の同窓会で上映する予定の同級生のメッセージと映像。13人収録予定のうち5作が一応完成。

(書記コメント)

まだ制作途中ということですが、後8人、一人ひとりの撮影、編集と大変だと思われる。内容は同級生間だけのプライベートな映像なので、コメントは差し控えます。